11 第１１章　金融資産形成

- 将来に向けた資産の作り方を学ぶ

本講での学習のゴール（講義後に学生は以下の事項ができるようになっている）

□　資産の特徴や単利・複利について理解できている
□　投資に伴うリスクと積立投資について知っている
□　投資に関する役立つ情報について評価をし始める

学習の狙い

人生における資産形成の重要性を認識し、資産形成には常にリスクが伴うものであることを理解する。資産は、安全性・流動性・収益性の観点から捉え、各資産および金融商品の特徴を知ると同時に、自分に適した資産運用の方法を学ぶ。

この章の概要

キャッシュフローを生み出す資産には、人的資産と金融資産と実物資産があり、そのうちの金融資産における長期的な資産形成の方法を学習する。

[Case 11-1]
元金 30 万円を、銀行の普通預金に入れておくのと、１年複利の 5 年もの定期預金にするのとでは、5 年後の受取額はどれくらい異なるか計算してみよう。
現在の普通預金の金利は 0.001% 、定期預金 5 年物の金利は 0.01%とする。

[Case 11-2]
A さん、B 君、C さんの 3 名がこの春、大学を卒業し正社員として就職した。A さんは、自動引き落としで積立定期に毎月 5 万円ずつ貯蓄している。B 君は、年 2 回のボーナスを受け取った際、まず自分へのご褒美として欲しいものを購入し、残りの 30 万円を定期預金に貯蓄している。C さんは、毎月 5 万円の貯蓄のうち 1 万円を積立定期に貯蓄し、4 万円を分散投資（国内債券、国内株式、海外債券、海外株式）の投資信託を購入している。いずれも 10 年後の住宅購入の頭金の準備を目的に貯蓄しているが、あなたならどの方法が適切だと思うか。

キー概念

□　金融資産形成とリスクコントロール
□　単利・複利
□　投資と投機
□　株式
□　債券
□　利回り
□　ポートフォリオと分散
□　投資信託

キー概念解説

金融資産形成とリスクコントロール：　金融資産形成とは、預金・株式・債券などの金融商品を活用して自己の資産を形成することである。各金融商品には、リスクが伴うが、特徴の異なる金融商品を組み合わせ、長期に保有することにより、リスクをコントロールすることができる。

単利・複利：　単利は毎年、元本のみに対して利息が付くことで、複利は元本と利息を含めた金額に利息が付くこと。複利は、元本が大きくなるので運用においては有利となる。

満期時の元利合計：単利＝元本×（１＋年利率×預入年数）

複利＝元本×（１+年利率）^{年数}

投資：　広義の投資とは、上記の３つの資産を殖やすことであるが、狭義の投資とは、株式や債券等の有価証券への投資である。自分が出資した資金により、出資先の国・企業・団体を応援することになるので、投資先の健全性や成長性、公正で持続可能な社会を構築するための社会的責任を果たしているか等を考慮し、投資先を選択することが重要である。

投機：　投機とは、株式市場や為替市場などの相場が上昇するか下落するかを短期的に予測し、値ざや（売買益）を追求する行動。多額の投機により、企業業績とは無関係に需給関係で株価が決まることもあり、高いリスクが伴う行動。長期的な資産形成には適していない。

株式： 株とは、企業が事業資金を調達するために発行するもので、企業は、株を購入した投資家が出資した資金により事業の拡大を行う。投資家は、株を購入することにより、株主となり、会社のオーナーの一部になることができる。株式とは、株式会社における株主の権利を示す有価証券であり、株主総会を通じた会社経営へ参加できる権利、配当金を受ける権利、会社解散時における残余財産分配の請求ができる権利を持つ。株式市場を通じて売買される上場株式と、上場されない非上場株式がある。

- 株式の投資尺度

株価収益率（PER）	株価/1 株当たりの純利益	数値が低いほど株価が割安
株価純資産倍率（PBR）	株価/1 株当たりの純資産	数値が低いほど株価が割安
配当利回り	一株当たり配当金/株価×100	数値が高いほど株価が割安

債券： 債券は、設備投資や運転資金として資金のニーズがある発行体（国、地方公共団体、企業等）が発行する債務証券（一種の負債）である。銀行借り入れの負債同様、満期（償還日）や利率（クーポン）が規定された金融商品である。

利回り： 投資金額に対する一定期間あたりの収益率。一年あたりの収益率を年平均利回り、6 ヶ月当たりの収益率を半年利回りと呼ぶ。

ポートフォリオと分散： ポートフォリオとは、金融資産形成において、株式や債券、不動産などの投資対象資産の組み合わせのことである。ポートフォリオによってリスクを抑えつつ一定のリターンを目指す。リスクを抑えるためには、ポートフォリオによる投資対象の分散以外に、通貨の分散、投資する時期を分散する時間分散がある。

投資信託： 投資信託とは、複数の投資家から集めた資金を、資産運用の専門家が管理し、国内外株式・債券等に分散投資する。その収益を投資家に分配・還元する金融商品である。手元資金の少ない個人投資家でも、少ない資金で購入が可能で、分散投資効果が得られる点が特徴。投資家（受益者）、投資家から集めた信託財産を運用する投資信託運用会社（委託者）、投資信託運用会社の指図を受けて信託財産を管理する信託銀行（受託者）、投資家への販売を行う証券会社、銀行等（販売会社）の 4 者で構成される。

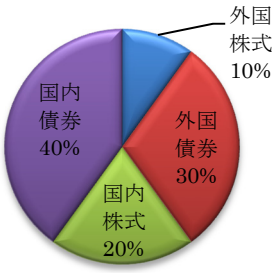
[Work 11-1]

ポートフォリオと分散投資

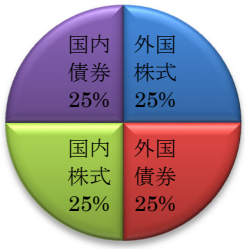
A さんと B さんが運用を始めようと考えている。2 人の家庭環境および投資に対する考え方は以下の通りである。A さん、B さんに適切なポートフォリオは、1.2.3 のどの組み合わせだろうか。

	A さん 55 歳 妻と子ども 3 人（小・中・高校生）の 5 人家族	B さん 30 歳 独身、父の所有する不動産物件に居住
投資可能な期間	10 年	35 年
家計状況	教育費・住宅ローンあり	自分の給料は、すべて自分のために使用
主観的なリスクに対する態度	出来るだけ元本を減らしたくないが、預金よりは有効に運用したい	ある程度額面割れしてもよいが、より多く殖えるものに投資したい

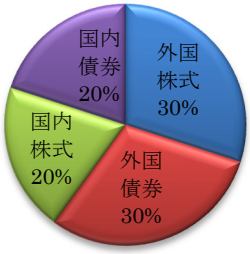
1．安定型ポートフォリオ



2．バランス型ポートフォリオ



3．積極型ポートフォリオ



[Work 11-2]
大学 3 年生の A さんは、就職活動を始める時期にあたり、優良企業を調べている。就職先として関心があるのが、情報通信サービス産業である。東証一部上場している以下の企業の中で、多角的な視点から優良企業を選んでみよう。
参照：東京証券取引所　上場会社情報　＜http://www.tse.or.jp/listing/index.html＞
株式コード：
日本電信電話（9432）、KDDI（9433）、NTT ドコモ（9437）、ソフトバンク（9984）

Student ID:　　名前：　　提出期限　　月　　日

[Homework 11-1]

A 君は、大学を卒業し、食品卸業者に就職した。A 君の就職先では、厚生年金はあるが、その他の企業年金は存在しない。老後の生活が心配なので、個人型確定拠出年金に加入しようか迷っている。銀行でパンフレットをもらい商品内容を見ると、確定拠出年金の運用先は、自分で選べるという。以下の Web サイトを参照し、自分の運用方針を決定し、その理由も含め、1000 字程度で説明しなさい。

参照：厚生労働省　確定拠出年金制度

＜http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/nenkin/nenkin/kyoshutsu/index.html＞

三菱東京 UFJ 銀行　確定拠出年金

＜http://www.bk.mufg.jp/sonaeru/401k/index.html＞

[Homework 11-2]

2014 年 1 月より NISA「少額投資非課税制度」が導入され、長期資産形成の 1 手段として注目されている。この制度の長所・短所を分析し、自分はこの制度を活用し積立を行うかどうかについて、その理由を含め、考えてみよう。自分の考えを 1000 字程度でまとめなさい。

参照：日本証券業協会 NISA Web サイト

＜http://www.jsda.or.jp/nisa/document/index.html＞